

# 学びあい育ちあい推進審議会 令和2年7月定例会要点録

---

令和2年7月16日（木曜）

出席委員	学校教育の関係者	
	委員	野々村 剛
	委員	山 川 毅
	社会教育の関係者	
	委員	青 木 ひとみ
	家庭教育関係代表	
	委員	鵜 澤 千 秋
	委員	細 田 雅 美
	学識経験者	
	委員	梅 澤 佳 子
	委員	炭 谷 晃 男
	公民館利用者代表	
	委員	野 口 享 子
	委員	中 川 雄 介
	公募市民	
	委員	鯨 井 俊 彦
	委員	安 藤 慎 次
	文化財保護審議会代表	
	委員	小 林 満起子
	図書館協議会代表	
	委員	玉 木 康 平

欠席委員 なし

出席職員	文化財担当課長	藤 田 純
	永山公民館長	北 方 静 史
	関戸公民館長	安 達 仁
	図書館本館整備担当課長	萩 野 健太郎

---

(開会時刻：14時40分)

議事録署名委員： 鵜澤委員

## 議事次第・配布資料

### 〔協議事項〕

- 1 会長・副会長の選出

### 〔報告事項〕

- 1 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会書面開催の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 1】
- 2 図書館本館再整備基本・実施設計業務の完了について 【資料 2】
- 3 公民館事業進捗状況について 【資料 3】
- 4 公民館施設使用状況について 【資料 4】
- 5 多摩市文化財保護審議会委員の改選について 【資料 5】

### 〔その他〕

- 1 学びあい育ちあい推進審議会の検討テーマについて 【当日配布】

永山公民館長： 審議会の議事進行は会長に行っていただくところだが、会長と副会長を決めていただくまで事務局で司会進行をさせていただく。なお、本日は教育企画担当課長が臨時議会開催により出席できないため、永山公民館長がその代理を務める。本日欠席の委員はなく、ただいまの出席委員は13名で、定足数に達しているため令和2年多摩市学びあい育ちあい推進審議会7月定例会を開始する。

—（配布資料の確認）—

—（各委員と職員自己紹介）—

### 〔協議事項〕

#### 1 会長・副会長の選出

永山公民館長： 多摩市学びあい育ちあい推進審議会条例第6条に規定する会長及び副会長について会議規則第3条に基づき選出をお願いする。任期は1年となる。指名推薦という形で進めさせていただく。

委員： これまで会長を続けてこられた炭谷委員に会長をお願いしたい。

〈拍手で賛同〉

永山公民館長： それでは炭谷委員に会長をお願いする。

会長： よろしくお願します。それでは引き続き協議事項1について副会長の選出を行う。どなたか副会長に推薦される方はいるか。特にならぬようなら私から民生委員として地域で活躍している鶴澤委員をお願いしたい。

〈拍手で賛同〉

会長： それでは鶴澤委員に副会長をお願いする。

〔報告事項〕

1 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会書面開催の結果について・・・【資料1】

永山公民館長： 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会が書面開催され、その決議の結果を報告する。議案は5つあり、そのすべてが原案どおり決議された。詳細については資料1を参照していただきたい。

質疑・意見： なし

2 図書館本館再整備基本・実施設計業務の完了について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料2】

図書館本館整備担当課長： 現在多摩市の中央図書館は旧西落合中学校の跡地にある。市民から中央図書館の開館の希望も多く、平成31年2月から基本・実施設計の取り組みを進め、今年5月にはその設計業務が終了した。本日は資料に沿ってその内容を説明したい。場所は多摩中央公園内となり、クロスガーデン多摩の目の前となる。多摩センター駅から徒歩で5.6分の場所にあり、駅からのアクセスもよい。この場所は高低差のある場所であり、傾斜地の立地特性を活かして、地上2階、地下2階の4階層となっている。高低差を利用し、レンガ坂からの入り口、道路の高さの入り口、大池の高さの入り口と3つの入り口を設けている。敷地面積は4,273平米と広く、公園に開かれた図書館をコンセプトとしている。建物は強化ガラスを多く採用し、外からは中の活動が見え、中からは公園の緑を感じられるような施設を目指している。図書館の機能ある特色としてはZEB（ゼブ）Ready（レディ）の認証取得をめざしてきた。「ZEB Ready」の認証を受けた施設は標準的な設備に比べて、消費エネルギーを50%以上削減でき、省エネルギーを実現することができる。実際設計段階でBELS評価という基準で60%削減を実現でき、「ZEB Ready」と認められた。新型コロナの関係で建物の換気が注目されているところですが、この建物の設計は新型コロナの感染予防を前提とした設計ではない。続いて防災機能について説明をしたい。東日本大震災の時にパルテノン多摩で多くの帰宅困難者を受け入れたという経緯があり、この図書館では、災害時に帰宅困難者を受け入れるスペースを設けている。建物の2階では最大169名の帰宅困難者を受け入れることができる。また、そのための備蓄用倉庫も用意している。屋根には太陽光パネルを設置し、電気自動車の蓄電池に充電することが可能である。また、災害による停電時には電気自動車の蓄電池から一部の電力を施設に供給することが可能であり、施設の照明や携帯電話の充電に活用することができる。次にバリアフリーについて説明をする。視覚障がい者への対応として自ら移動が可能なようにトイレや障がい者サービスエリアに至るまでのルートに誘導点字ブロックを設置する。車いす対応としては書架の間隔は車いす利用者と人がすれ違える広い幅を確保する。子どもへの対応としては子ども開架エリアに親子トイレと授乳室を整備する。次に各フロアについて説明をする。2階については「広場系開架」と位置づけ、節度あるにぎやかさが許容されるエリアとする。また、渡辺茂男氏の作品「もりのへなそ

うる」の世界観を伝える「へなそうるのへや」を設置する。続いて1階の説明をする。1階については「静寂系開架」と位置づけ、収蔵冊数の2/3を収め、静かに読書や研究をできるエリアとする。地下1階については事務室と閉架書庫を配置したバックヤードゾーンとなる。地下2階については車道に面しており、車でのアクセスのしやすさを活かし、学校や児童館、保育園などの団体貸し出し用の書庫や配本ヤードを配置する。

委員： 「もりのへなそうる」とは何か。

図書館本館整備担当課長： 「もりのへなそうる」は多摩市にお住まいだった児童文学作家の渡辺茂男氏の作品である。渡辺茂男氏が亡くなった後に息子である渡辺鉄太氏から多くの資料を図書館に寄贈していただいた。作品の中には多摩の昔の風景がよく使われており、図書館としても渡辺茂男氏の作品のPRをしているところである。

会長： 職員数の配置はどのように想定しているか。

図書館本館整備担当課長： 自動貸出機や自動返却機といった機械を導入するなどし、大きな施設であるが、できるだけ職員を増やさない方向で検討している。

委員： 新しい図書館でパソコンを使える環境はあるか。

図書館本館整備担当課長： 多くの席に電源コンセントを用意し、Wifiが使える環境も整備する予定である。図書館の利用者の多くは自分のパソコンを持ち込んで利用することが増えることを想定している。

委員： ハード面だけでなく図書館のソフト面の充実を考えていただきたい。市民が主体的に学べる場所となるだけでなく、子どもから大人まで色々な読書ができることに加え、基礎教育が展開できるものとなればよい。

委員： 大池の水が図書館に入り込むことはないのか。

図書館本館整備担当課長： 大池から近い場所に中央図書館を設置することとなるが、図書館の中に水がしみ込むことがないように設計している。

### 3 公民館事業進捗状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 3】

### 4 公民館施設使用状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 4】

永山公民館長： 資料4からご覧いただき、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた説明をしたい。公民館は3月2日から全館閉館となり、その後オープンスペースだけの一部開館を経て、現在に至っている。5月の使用状況は28日までは全館閉館であった。29日から一部開館となり、ギャラリースペースを29、30、31の3日間開けることができた。

6月15日から3密を回避し、マスク着用、換気、消毒等を利用団体にお願ひし、了承いただけた団体の利用が始まった。6月の貸出状況は6月15日以降の状況である。市民団体の中でも公民館の貸し出しを心待ちにしていた団体があれば、新型コロナウイルスの感染が怖いためしばらく活動を休止する団体もあり、市民団体の対応は様々であった。資料3 項番1「市民企画講座」は前期と後期に分かれ、前期は通常4月に募集するが、今回は中止となった。後期の応募は8月からを予定している。

項番5「保育室開放デー」、項番6「子育てつどいの広場」は7月から保育室の定員を大幅に減らしたり、消毒をお願いしたり、注意をしながらの運営となっている。項番19「サロンライトコンサート」は密になることを避け、場所をホールに移し、これまで144席あったのを36名定員で実施する予定である。項番21「アイスランドパネル展」はオリンピックで多摩市がアイスランドのホストタウンとなったということで、3月にアイスランドの紹介等を予定していたものを延期して実施したものである。

関戸公民館長： 関戸公民館は6月15日が閉館日ということもあり、6月16日から団体の貸出が始まった。スタジオ等は7月に入って日中はほぼ埋まりつつあり、公民館の利用もだいぶ戻ってきている。ホールについては本来250名の定員を70名の定員として、約1/3の定員で貸し出しを行っている。資料3 項番11「関戸地球大学院」は従来多摩市の3大学（大妻女子大学、恵泉女学園大学、多摩大学）で連携をして開催してきた。今年度から桜美林大学、東京医療学院大学、国士舘大学の3大学を加え、6大学で関戸地球大学院を進められるように現在調整中である。項番20「演劇フェスティバル」、項番22「マンスリーコンサート」、項番23「What' JAZZ」については公民館のホールにおいて無観客で行い、録画したものを多摩市の公式YouTubeでその公演を配信しているところである。

会 長： 消毒等は利用者が各自で用意をするのか。

関戸公民館長： 手指の消毒用、器具の消毒用を分けて公民館で用意している。

委 員： 「関戸地球大学院」は多摩市の6大学が参加し、すばらしい。この事業の対象者はどのように考えているか。

関戸公民館長： 「関戸地球大学院」の時間設定は18時45分から20時45分でサラリーマンの方がぎりぎり参加できる時間帯を設定したが、実際には団塊世代の方の参加が多い。1回50人ほどの参加があり、昨年度年6回の開催で皆勤賞が14～15人いた。

委 員： 生涯学習の環境も変わりつつあり、様々な大学で教養講座が行われるようになってきた。せっかく6大学が集まるのであれば、シリーズもので一つの大学に預けるとか、積み上げていく作り込みをしてみるなど色々ご検討いただければと思う。

関戸公民館長： まだ各大学の意見をもらっていないので、未定の部分が多いが、新型コロナによる生活の変化についてシリーズものでやってみるとか、6大学が参加するパネルディスカッションなどいくつかのアイデアを考えているところである。

委 員： 私は都内から仕事後帰宅すると18時45分では参加に間に合わない。もう少し開催時間を遅らせることはできないか。

関戸公民館長： 夜遅くなると帰りの危険度が増すなどの問題もあり、開始時間を遅くすることは難しい。

## 5 多摩市文化財保護審議会委員の改選について・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 5】

文化財担当課長： 多摩市文化財保護審議会委員が改選されましたので報告をする。任期は令和2年5

月1日から2年間である。一人が退任し、一人を新任として迎え、9人の委員で構成され、今後多摩市文化財保護審議会を進めていくこととなる。

質疑・意見：なし

## 〔その他〕

### 1 学びあい育ちあい推進審議会の検討テーマについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・【当日配布】

会 長：多摩市学びあい育ちあい推進審議会の検討テーマについて、事務局と話し合い、配布された内容の下案を考えた。私の方から簡単に説明したい。検討テーマは「社会教育施設のあり方」というものである。スケジュールとしては2年をかけて検討内容をまとめ上げていきたい。1年目は公民館、図書館、文化財施設といった社会教育施設の今ある問題や課題を絞り出し、2年目はその課題に沿った具体的なテーマについて提言をまとめるといった2段階で進めていきたいと考えている。しかし、新型コロナが発生し、公民館などの社会教育施設が閉鎖となり、市民活動が止まってしまうという事態に発展した。新型コロナが蔓延する中で社会教育活動を進めるというのはどういうものかと思うが、一方このような状況でどのように社会教育活動を進めていくかということを研究テーマとするのはどうだろうか。今後新型コロナの第2波、第3波が来た時にどのように市民活動を保障し、社会教育活動を進めていけるかをこの審議会を考えておくべきではないか。具体的にはオンラインを使った学習を提供する方法もひとつの解決策である。社会教育における対応が対面で行うことができないのであれば、どのような工夫をして進めていくことができるのか、各団体で考えて、勉強しながら進めていけたらよいのではと私は考える。テーマのまとめ方の1つ目は社会教育施設の在り方について1年目に課題を絞り、2年目に提言をまとめていくという方法である。2つ目は今緊急の問題である新型コロナ対策について皆さんで学習をし、2年目は新型コロナの状況次第で再考するというものである。皆さんの率直な意見を伺いたい。

委 員：公民館が閉鎖され、市民の活動ができなくなるという事態となり、公民館閉鎖の影響を実感しているところである。大学の授業はすぐにオンライン授業に切り替えることができたが地域の社会活動をどう継続していくか、どのようにコミュニケーションをとっていくかということを検討テーマとすることはよいのではないか。

委 員：初めての参加なので教えてほしい。過去の検討テーマはどのようなものがあったのか。また、これまでは2年間でまとめるというスタイルをとっていたのか。

会 長：過去の会議では検討テーマについて1年間かけてまとめてきた。

永山公民館長：平成29年は「多摩市の地域力の向上に資する公民館活動の方向性について～大人と子どもがともに学びあい育ちあう社会教育のデザイン～」であり、平成27年は「より豊かな教育連携支援事業に向けて」というものであった。

会 長：平成27年は当時多摩市が進めていた学校と地域連携をテーマとし、平成29年は社会教育施設としての公民館の活動に的を絞ってみた。

- 委員：新型コロナについては地域団体、学校等それぞれどのような対策をとったかを情報共有できるだけでも意味がある。今後新型コロナの第2波、第3波が来た時、また違ったウィルスが発生した時の対処の参考になるのではないかと同時に、会長から示された「社会教育施設の在り方」というテーマを検討していくのがよいのではないかと。
- 会長：私も今の意見に同感である。新型コロナの時代に様々な市民活動、社会教育活動がどう過ごしたかをまとめるだけでも意味がある。各団体でそれぞれ記録されているだろうが、それをまとめ上げるだけでも大きな意味をもつのではないかと。その記録の中からテーマをあぶりだし、そのテーマに沿って来年度は提言をまとめていければよいのではないかと。テーマについては次回に決めるのでよいかと。
- 永山公民館長：次回の会議はフリーディスカッションとなっており、今回の会議で検討テーマを決めることが難しいのであれば、次回の会議でテーマを決めることもできる。
- 会長：大学でのオンライン授業を通じて面白い発見ができた。これまで学習障害等で大学に来ることが難しかった学生が、オンライン授業であれば、容易に授業に参加することができた。また、ゼミなどで大勢の中では発言することが苦手な学生の意見を聞くことができたことなどである。
- 委員：私のゼミの学生は八王子の地域で地域包括支援センターと連携して高齢者サロンを月1回実施している。若い彼らが高齢者のところに行くことが問題となり、ZOOMを使って様々な機能を使いこなして、高齢者と連絡を取ることを始めた。新しい高齢者サロンができるかもしれないと考えている。新型コロナの時代で、多くの社会教育団体は「とりあえず当面は活動を止めよう」という決断をしている。ただ新型コロナの時代はいつ終わるのかわからないという中で前に向かって何ができるかを考えていくことが大切であると思っている。新しいデザインを考える中で、新しい人を巻き込んでいけるかもしれない。
- 委員：私は自宅を開放して高齢者サロンをやっており、約80人の参加者がおり、年間約2000名が集っている。その中でパソコンを使えるのが私を含めて2名程度である。そこで高齢者サロンの活動として手紙を送る活動をしている。絵手紙や絵葉書とかで返事をいただいている。月1回の活動であるが皆さんから手紙で返事がきたり、電話できたりしている。私たちの活動の中ではZOOMを使って活動するのは無理がある。携帯電話を使った活動であればできるかもしれない。
- 委員：初めて参加する方が多いので次回の会議では過去の提言の資料を用意してほしい。
- 永山公民館長：次回の会議の資料として用意したい。
- 会長：その他なにかご意見はあるか。
- 委員：「健幸都市多摩」というフレーズの中でここ5年くらい多摩市では「健幸」という造語を使っているが、いかがなものか。漢字の成り立ちとして「幸」は受動的な幸せを意味し、自助努力の意味が薄れてしまう。また小学生が「健康」という漢字を間違えて覚えてしまう危惧もある。以上の理由から多摩市が「健幸都市」というキャッチフレーズを使うのはどうかと思う。

- 委員： 私のゼミの学生が八王子で高齢者サロンの運営に関わっている。高齢者サロンの運営紹介のパンフレットを作成したので皆さんにみていただきたい。
- 会長： 以上で、本日の予定は全て終了した。次回は、8月20日木曜日14時30分より、第二庁舎会議室で行う。

(1時間59分)

(閉会時刻16時39分)

会議規則第10条第4項によりここに署名する。

令和2年8月20日

会長

委員